

通う人の  
言葉から  
見えてくる  
スクール

「アースロン・コム  
(PeaceHoshina.com)」  
制作チームの皆さん

会社に勤めて3年経った春。彼は新しい一步を踏み出した。自分の目標を実現するために歩き始めた道で出会ったのは、同じ志を持った仲間たちだった。

文 小泉森弥 撮影 大内政典

# 学ぶ人 学ぶ場所



白石哲郎さん

夏井瞬さん

上田晴菜さん

リーダー  
坂斉智さん

気づいた時には遅かった  
しかし彼はあきらめなかった

今回訪れたデジタルハリウッド東京本校(以下デジハリ)は、デジタル黎明期から現在に至るまで、数多くのクリエイターを輩出してきた名門スクール。

卒業生のみならず、受講中の生徒の活躍が目立つのも特色の一つだ。

そのデジハリでグラフィック・アートデザインを学ぶ坂斉智さん、上田晴菜さん、夏井瞬さん、白石哲郎さん(写真右から)もまた、快拳を成し遂げた実力派だ。スクールで知り合い、意気投合したこの4人が制作したWEBサイトが、見事「Japanウェブデザインアワード」で審査員特別賞を受賞したのだ。今回は、その中でリーダーを務めた坂斉さんにスポットを当て、話を聞いた。

大学では経営学を学び、卒業後はシステム関連の仕事をしていたという坂斉さん。そんな彼がグラフィックデザインを学ぶこととなった経緯には何があったのだろうか。

「学生時代、いざ就職活動という段になって、本当にやりたいことに気づいたんです。でも、その時はデザインを学んだ経験がなかったため、希望の職種に就くことができませんでした」

そこで坂斉さんは、まず就職して社会経験を積みながら、スクールでデザインを学ぶための準備をすることに決めた。「はじめから3年間と決めて就職したんです。職場の環境が良かったので、決心が揺らぎそうになることもありませんが…」  
こうして3年後、彼は当初の決意を

貫くべく、仕事を辞めてスクールの門を叩いた。授業ではインデザイン、フォトショップ、イラストレーターといったDTPソフトはもちろん、WEBデザインソフトやデッサンのようなデザインの基礎も学び、彼は着実に力を付けていった。

作り上げたWEBサイトが  
信頼と結果を生み出した

一般的に、スクールの授業というと、課題をこなすなどの単独学習が多く、実際の現場のように共同作業や外部とやりとりをする機会は少ない。そこでデジハリでは、実践的な力を付けるために、たびたび企業とデザインコンペを共催し、生徒に挑戦をすすめている。今回、4人がWEBサイトを制作することになったのもこのコンペがきっかけだった。坂斉さんは、普段の授業とは違った苦労を今回の経験で味わったという。

「企業側とコンセプトをすり合わせたり、制作したWEBサイトをプレゼンをする際には、自分たちの考えを人に伝えることの難しさを思い知りました。それに、4人それぞれの力をどうすれば最大限に活かせるか悩んだのも初めてでしたね」  
しかし、チームのメンバーは坂斉さんについて「外部との交渉やプレゼンで非常に頼もしかった」と語ってくれた。彼のこれまでの社会経験が大いに活かされたのだろう。  
彼が得たのは単に賞という結果だけではなく、経験という宝物。同じ目標を持ち、互いに刺激し合える仲間に出会えた彼はこれからも、一人ではできなかった大きな成長を遂げていくだろう。

自分たちの考えを伝えることの難しさ  
それと同時に、チームワークの  
素晴らしさも知りました

## 坂斉智さんのスクールでの様子



生徒の数はクラスにもよるが15~20名程度となっている。授業は、現役のデザイナーでもある講師が担当し、この教室の場合はほかにも数名のティーチングアシスタントが付き、万全のサポート体制がとられている。



授業のない時間なら、生徒は自由に教室にあるMacを使って課題に取り組むことができる。また、オールナイトフリータイムというシステムを利用すれば、教室内のMacをオールナイトで使うことも可能だ。



上は、「平和継承」というコンセプトの元に4人が制作したWEBサイト「Peace Hiroshima.com」(<http://www.peacehiroshima.com/>)。「Japanウェブデザイン」で受賞したほかにも、いくつかのコンペで最終選考にノミネートされている。また右は、坂斉さんが授業の課題として制作したフリーペーパーだ。誌面のデザインや構成はもちろんのこと、記事の執筆や写真の撮影などにも挑戦したという。



## 生徒さんの作品紹介

先生に  
聞きました!



渡部昇治講師

●グラフィック・アートデザイナー専攻では、どのようなことを学ぶのでしょうか?

まずはDTPソフトの使い方を学びます。

もちろん、同時にデザインの基礎的な力を養うためのカリキュラムも行われていきます。最近では、特に広告関連のグラフィックデザインと並行してWEBサイトが制作されるケースが多くなっているのですが、その分野のスキルも必須条件となりつつあります。そういった理由から、フラッシュやドリームウィーバといったWEBデザインソフトの授業にも力を入れています。

●どんなスタイルの授業ですか?

作例を使って学ぶ、実習型の授業です。レベルに合った課題が出されるので、学んだ技術を使って自分の力で作り上げてもらいます。授業には、講師のほかにもTAと呼ばれるアシスタントが数名付いていますので、疑問があればその場で気軽に質問することも可能となっています。

●デジハリは「デザインコンペに力を入れている」と聞きましたが?

これまでの実績を鑑みて、さまざまな企業や団体から声をかけていただいています。授業だけでは学べないこともありますが、生徒さんには積極的に参加してほしいですね。これだけ豊富なコンペを開催しているというのも「デジハリ」の特徴でもあると思います。

●このコースを受講するには、Macに慣れないと難しいのでしょうか?

初めからMacを使いこなしている方もいらっしゃると思いますが、そういう方はやはりありませんので、ご安心ください。それよりも、目標をしっかり持って望むことができるか、そちらのほうが大事だと考えています。

●このコースを受講した方の就職先は?

雑誌などのエディトリアルデザイン事務所や、広告代理店、また、WEB制作関連の仕事に進む方が多いです。

●最後に、「デジハリ」の特徴を教えてください。

長年この分野に携わってきた実績と、多くの卒業生が現場の最前線で活躍していることが特徴であり、誇りでもあります。高い目標をしっかりと持った生徒さんが集まり、互いを刺激し合いながら切磋琢磨している、という点でしょうか。我々はその志を全力でサポートしたいと思っています。

## デジタルハリウッド 東京本校

☎ 0120-386-810

🌐 <http://school.dhw.co.jp/>

〒101-0062 千代田区神田駿河台2-3  
DH2001 Bldg.

※ほかにも、秋葉原校、渋谷校、池袋校、横浜校、大阪校、京都校、神戸校、札幌校、福岡校がある



最新の業界動向が反映されたカリキュラムが特徴のマルチメディアスクール。DTPやグラフィックデザインコースのほかにも、CGや映像、WEB、アニメーション、プログラミングなど、幅広いコースが用意されている。長い実績から多くのクリエイターを輩出しているため、業界での人脈交流も盛んだ。